ありたい姿から始める農村RMO

20260911中央研

弘前大学平井太郎

ありたい未来への行き着き方を探る

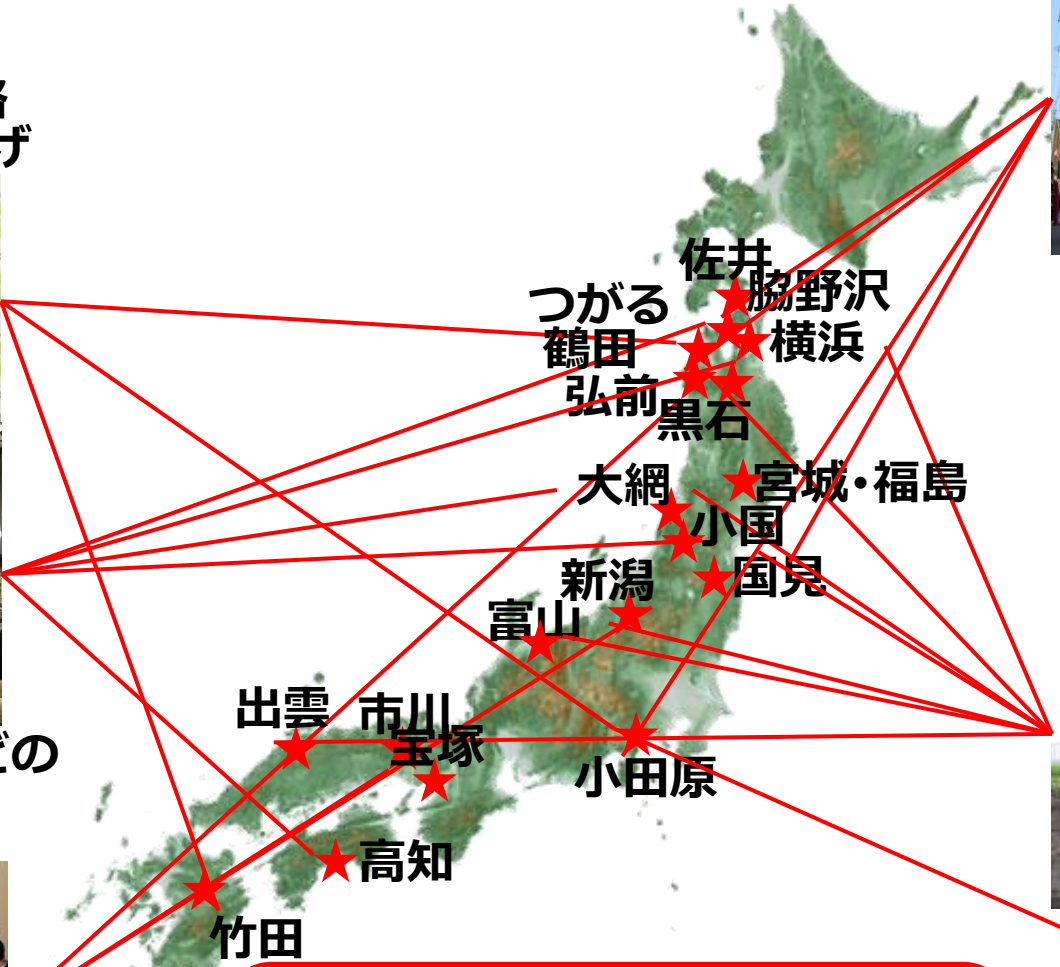
総合計画・総合戦略
ビジョンと積み上げ

旧学校・空き家などの
再生(管理構想)

移住者・関係人口
との共創(協力隊)

伝統行事の継承
(歴史まちづくり)

持続可能な生業
(農村RMO
・みどりシステム)



何が望ましいか、よりも、
どうしたらありたい未来が、
現場の実践actionから
生み出せるかを研究research
年間50件ほどワークショップ

食料安保による農政大転換が細切れで進むのに振り回されないよう現場起点で

新たな食料・農業・農村基本計画における主な目標・KPI

参考資料２

関係者の連携による持続的な食料システムの確立

食料安全保障の確保

＜目標＞ ＜KPI＞

- 食料の安定的な供給
  - 国内の農業生産の増大
    - **食料自給率**（・摂取ベース：53%　・国際基準準拠：45%）
      - 国内消費仕向量（輸入量含む）
      - 生産量（青刈りとうもろこし等飼料作物を含む）
        - 作付面積
        - 国産切替量（麦、大豆、加工・業務用野菜）
        - 輸出量
        - 国産小麦・大豆の保管数量
    - ＋ 安定的な輸入の確保 ＋ 備蓄の確保
      - **輸入の安定化**
        - 輸入相手国の多様化状況（主要穀物別ウェイト付ハーフィンダール指数）
        - 輸入相手国の調達網への投資実行件数 ＋ 二国間政府対話等の枠組数
      - ＋ **食料の備蓄の確保**（米、麦）
        - 国産小麦・大豆の保管数量
  - 食料自給力の確保
    - 農業の持続的な発展
      - 農地・人（人材、経営）
        - **農地の確保**（農地面積：412万ha）
          - 農用地区域内の農地面積目標の達成状況
          - 農業水利施設の機能が保全され、農業用水が安定的に供給されている農地面積の割合
          - 防災対策を講じる優先度が高い防災重点農業用ため池における防災工事の着手割合
        - **サスティナブルな農業構造**（49歳以下の担い手数：現在の水準を維持）
          - 農業分野における生産年齢人口のうち49歳以下のシェア
          - 地域の方針策定に参画する女性農業者の割合
          - 販売金額に占める主業経営体＋法人等団体経営体のシェア
          - 担い手への農地集積率
          - 【農業構造】食料自給力の確保に関する目標に係る農業構造の見通しを提示
      - 技術
        - **生産性の向上**（労働生産性・土地生産性）（・１経営体当たり生産量　・生産コストの低減（米、小麦、大豆））
          - 生産コストの低減
            - 水稲作付面積15ha以上の経営体の面積シェア
            - 大区画化等の基盤整備の実施地区における担い手の米生産コストの労働費削減割合
            - スマート農業技術を活用した農地面積の割合
              - スマート農業技術活用促進法の目標に掲げる技術の実用化割合
              - サービス事業者の経営体数
              - 支援対象スタートアップの売上額
            - 品目ごとの単収
              - 多収化や高温耐性などに資する品種の育成
      - 生産資材
        - **肥料の安定供給の確保**
          - リン（窒素、カリ）の国内資源利用割合
          - りん安、塩化加里の備蓄状況
        - **種苗の安定供給の確保**
          - 稲・麦・大豆の国産種子需要に対する供給率
        - **飼料の備蓄の確保**
          - 飼料穀物の備蓄量
          - 【技術体系、労働時間、所得】スマート農業技術の活用などによる超省力化されたモデル的な経営の姿として、代表的な営農類型ごとに、農作業技術体系を、労働時間・所得と併せて提示
    - 輸出の促進
      - **農林水産物・食品の輸出額**（輸出額：５兆円）
        - 輸出重点品目ごとの輸出額
        - 大規模に農畜産物の輸出に取り組む産地数
      - **食品産業の海外展開による収益額**
        - 食料品製造業の現地法人の売上高
      - **インバウンドによる食関連消費額**
        - インバウンドによる一人当たり食関連消費額
        - 訪日外国人旅行者数
- 食品産業の発展
- 合理的な価格形成
  - **食料システムの持続性の確保**
    - 食品等の持続的な供給を実現するための食品事業者による取組数
    - 生鮮食料品等の中継共同物流拠点数
    - 船舶、鉄道等による農水産品・食品の輸送の割合
    - フードテック官民協議会に参加する企業・団体等数
    - 食品産業における環境・社会への配慮に取り組む事業者数の割合
    - 農業・食品関連産業の国内生産額（名目）
- 国民一人一人が入手できる
  - 物理的アクセス ＋経済的アクセス ＋不測時のアクセス
    - **食品アクセスの確保**
      - 買物困難者への対策の取組が行われている市町村割合
      - 経済的な食品アクセスの確保に取り組む市町村割合
      - フードバンク活動を行う団体の食品取扱量

多面的機能の発揮

- **農業生産活動の継続を通じた多面的機能の発揮**
  - 農地・水路等の保全管理により農業生産活動が維持される農用地面積

環境と調和のとれた食料システムの確立

- **温室効果ガス削減量**
  - 分野別の排出削減量・吸収量
  - みえるらべる商品が通年購入可能な店舗等がある都道府県数
  - 農業分野のJ-クレジットの認証量
- **生物多様性の保全**
  - 化学農薬使用量(リスク換算)、化学肥料使用量の低減
  - 有機農業の取組面積、有機農業産地づくりに取り組む市町村数
  - 有機農業の技術指導体制が構築されている都道府県の割合
- **農山漁村における循環型社会形成**
  - バイオマス利用率、農林漁業循環経済の構築に取り組む地域数
- **食品産業の環境負荷低減**
  - 食品産業における環境・社会への配慮に取り組む事業者数の割合
  - 事業系食品ロスの削減率

農村の振興

- 農業生産の基盤の整備・保全
- 地域の共同活動の促進
  - **地域の共同活動の促進による農業生産活動の継続**
    - 農地・水路等の保全管理の共同活動を行う小規模組織のうち体制強化に取り組む組織の割合
- 農村との関わりを持つ者の増加
  - 機会の創出
    - **農村関係人口の拡大が見られた市町村数**
      - 農村関係人口の増加に向けた取組が行われている市町村数
  - 経済面の取組
    - **農村地域において創出された付加価値額**
      - 地域資源を活用して付加価値額向上に取り組む事業体の割合
      - 農泊地域での年間延べ宿泊者数、宿泊等の売上額
  - 生活面の取組
    - **農村関係人口の拡大の取組が移住・定住につながった事例のある市町村数**
      - 中山間地域で９戸以下の集落を有する市町村のうち農村RMOが活動している市町村の割合
- 中山間地域等の振興、鳥獣被害対策
  - **中山間地域等の振興**
    - 中山間地域等における地域の共同活動を行う小規模組織のうち体制強化に取り組む組織の割合
  - **鳥獣被害の防止**
    - 野生鳥獣による農作物被害額の総産出額に対する割合
    - ジビエ利用量

令和９年度農林水産関係予算概算要求の概要

総額　３兆１,３７７億円（２兆２,９５６億円） ※（　）内は令和８年度当初予算額

うち『「強く豊かな日本」投資枠』　４，２７２億円

＜事項要求＞

①**新たな水田政策**の実施に係る経費
②**農業構造転換集中対策**期間において機動的・弾力的に対応すべき事業の実施に係る経費
③「**食料安全保障強化政策大綱**」を踏まえた食料安全保障の強化に向けた対応に係る経費

○　農林水産業の構造転換による成長産業化及び食料安全保障の強化

①食料安全保障の強化

○　**水田活用の直接支払交付金等**の**抜本的見直し**、**中山間地域等直接支払・多面的機能支払**の**見直し**、**新たな環境直接支払**の創設

新たな水田政策の創設
3,565億円＋事項要求（3,565億円）

②農地・人材・技術の強化による農業の持続的・創造的発展

○　**地域計画**の実現に向けた**農地バンク**の機能発揮・**協力団体**との連携による**農地集約化**、**新規就農者**の育成・確保、担い手の**機械**等の導入

地域計画に基づく農地の集約化
291億円（174億円）等

○　**農地の大区画化**等、**水利施設の計画的更新**、**ため池防災・減災対策**、**情報通信環境整備**など生産基盤・生活インフラの整備・保全

農業農村整備事業＜公共＞
4,375億円（3,365億円）等

○　**スマート農業技術**の開発・供給、**サービス事業者**の育成・活動、**重要品種**の育成・**種苗**生産、**農研機構の研究開発・機能強化**の推進

スマート農業技術活用促進集中支援プログラム　796億円（185億円）等

③農村の振興

○　**官民共創の促進**による地域活性化、地域課題に応じた**総合的な人材育成**、農福連携、農泊など**里業**の推進、**中山間地農業の振興**

農山漁村振興交付金
100億円（70億円）

○　強固な侵入防止柵など**柵整備の強化**、クマ・シカ・イノシシの**捕獲対策の強化**など**鳥獣被害防止対策**の推進と**ジビエ利用**の更なる拡大

鳥獣被害防止対策とジビエ利用の推進
199億円（100億円）

11 日本型直接支払

令和９年度予算概算要求額　事項要求（前年度 －）

＜対策のポイント＞

近年の農村地域の高齢化、人口減少等により、地域の共同活動等によって支えられ国民全体が享受している多面的機能の発揮に支障が生じつつあることから、平成27年度から「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律（平成26年法律第78号）」に基づき、日本型直接支払を実施しています。

＜政策目標＞

地域の共同活動、中山間地域等における農業生産活動による農業の多面的機能の維持・発揮及び農業生産活動における環境負荷の低減

＜事業の内容＞	＜令和９年度の見直しの内容＞
多面的機能支払 事項要求（前年度 50,048百万円） 活動内容に着目 【資源向上支払】 ○**地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る共同活動を支援** 【農地維持支払】 ○**多面的機能を支える共同活動を支援** 水路の泥上げ	活動組織の支援の充実 ○**外部人材の確保や先進技術の活用**により作業の省力化を図る取組を支援し推進 ○地域全体で**長期中干し、冬期湛水等の取組を拡大**させる観点から、取組に対して行っている現在の支援を、活動組織にインセンティブが働く支援に見直し
中山間地域等直接支払 事項要求（前年度 28,460百万円） 対象地域に着目 ○**中山間地域等**において、農業生産条件の不利を補正することにより、**将来に向けた農業生産活動の継続を支援** 中山間地域	対象農用地の拡大 ○**傾斜によらない不利性（法面管理、ほ場条件等）を有する農地**について、協定農地の営農や共同活動の継続に地方公共団体が必要と認める場合に、集落協定の**対象農地へ位置付け** 地方負担の軽減 ○現行の地方財政措置に加え、更なる**地方の負担軽減策**としてどのような対応ができるか検討
新たな環境直接支払 事項要求（前年度 － ） 取組内容に着目 ○有機農業等の**環境負荷低減型農法への転換・拡大の取組を支援** 有機農業	対象者の拡大 ○**みどり認定農業者を対象（個人・団体いずれの申請も可）** 導入リスクにも対応した支援 ○**① 有機農業への転換、② 環境価値を創出する取組、③ 土づくりの面的拡大等に資する取組**について、取組ごとの転換・拡大時の**「掛かり増しコスト」だけでなく「導入リスク」にも対応した支援** ○**同一圃場での同一取組への支援は５年間を区切り**とし、**新たな圃場への取組拡大等を促進**

共通

プッシュ型による取組強化

○国は、都道府県・市町村とともに、地域計画の見直しとも連携しつつ、集落に対する関与を強化

返還免除規定の徹底

○高齢や病気等のやむを得ない事情がある場合には、**遡及返還が不要であることを徹底**

一体的実施の推進

○中山間地域等直接支払の集落協定が、既存の組織のままで**多面的機能支払もまとめて申請**できる仕組みを導入し、多面的機能支払の取組拡大を図る

なんのための多面の重点化、中山間対象拡大、多面中山間一体実施へのプッシュ？

88 中山間地域集中強化対策

<対策のポイント>

令和９年度以降の水田政策の見直しの中で、**中山間地域等直接支払の見直し**を行うとともに、**農業を「支える」**ための施策、**農業に「関わる」者を増やす**ための施策、**農業で「稼ぐ」**ための施策を一体的に講ずるため、関係府省の施策を含め**中山間地農業の振興施策を充実**します。

地域の実情に応じた取組が実施できるよう、中山間地農業ルネッサンス事業や農山漁村振興交付金等を活用し、計画づくりから事業実施、取組の定着等を行う地域への**伴走支援体制を構築**します。

<事業目標>

将来にわたって稼ぎ、暮らしていける中山間地域の実現

将来にわたる生業・生活の持続が目標

~~巻き込み~~ 対話と出番

伴走・横串

<事業の全体像

生業　中山間地域等の農業で「稼ぐ」取組

中山間地農業ルネッサンス事業

地域別農業振興計画に基づく地域特性を活かした活動の推進や各種支援事業の優遇措置により、中山間地農業を支援

きめ細かな基盤整備

高収益作物の導入

スマート農業の導入

地域資源活用価値創出対策※

６次産業化、農泊、農福連携など多様な地域資源を活用することにより、新たな価値を創出し、所得の向上と雇用の創出を図る「里業」の取組を支援

中山間地農業推進対策※（元気な地域創出モデル支援事業）

収益力向上、販売力強化等に関する取組を支援

中山間地域等の農業を「支える」取組

中山間地域等直接支払

農業生産条件の不利を補正することにより、将来に向けた農業生産活動の継続を支援

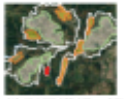
農用地の維持・管理

多面的機能支払

地域共同で行う多面的機能を支える活動等を支援

最適土地利用総合対策※

地域における土地利用構想の策定から実現までの取組や荒廃農地の再生を総合的に支援


土地利用構想の策定

農地の粗放的利用

※農山漁村振興交付金の複数事業については、一括申請が可能

中山間地農業推進対策※（農村RMO形成推進事業）

複数集落の機能を補完する農村RMOの形成を支援

鳥獣被害防止総合対策交付金

鳥獣被害対策等を支援

中山間地域等の農業で「関わる」者を増やす取組

地域資源活用価値創出対策※

農泊地域の実施体制の整備、食や体験の観光コンテンツとしての磨き上げ、地域交流拠点の整備等を支援

中山間地農業推進対策※（棚田地域振興対策推進事業）

地域外との橋渡し・人材確保を支援

地域の計画づくりや伴走支援人材への支援

地域資源活用価値創出対策

専門家や伴走支援人材を派遣・紹介する体制整備、各地域の課題に対応したオーダーメイド型の人材育成、発展的・継続的な地域づくりのための実証を踏まえた計画策定への支援

地方創生センター

地方農政局　市町村　教育機関　専門家　民間企業　地域金融機関　民間団体

○必要な人材のマッチング・派遣

○事業の創出、経営改善をサポート

地域の実情に応じて取組をサポート

関係府省の制度活用

- 内閣府
- 総務省
- 文部科学省
- 厚生労働省
- 国土交通省　等

多様な主体との連携

- 郵便局
- 地元企業
- RMO
- 地域おこし協力隊
- 集落支援員　等

将来にわたって稼ぎ、暮らしていける中山間地域の実現

中山間緩傾斜への拡大＋中山間と多面の一体実施→中山間と平場の横断的取組が期待

86－6 農山漁村振興交付金のうち 中山間地農業推進対策

令和９年度予算概算要求額 9,970百万円（前年度 7,045百万円）の内数

＜対策のポイント＞

中山間地域等において、地域別農業振興計画に基づき、**収益力向上や販売力強化等に関する取組**、複数集落の機能を補完する**農村RMOの形成のほか**、**棚田地域等の振興に関する取組**を支援します。

＜事業目標＞

中山間地域等において、地域資源を活用した商品開発等による付加価値向上や販路開拓に取り組み、事業目標を達成した地区の創出（300地区［令和12年度まで］）

＜事業の内容＞

1．中山間地農業ルネッサンス推進事業

元気な地域創出モデル支援※

収益力向上等に関する取組、デジタル技術の導入・定着を支援します。

【事業期間：上限３年、交付率：定額（上限3,000万円（年標準額：1,000万円））】

2．農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業

① **農村RMOモデル形成支援**※

ア **活動着手支援型**：遊休農地活用の開始など、**農村RMOの形成につなげる取組**を支援します。

【事業期間：１年、交付率：定額（上限200万円）】

イ **地域連携型**：農村RMOの活動の定着に向けた**活動継続計画の策定**や**地方公共団体等と連携した取組**を支援します。

【事業期間：上限４年、交付率：1/2以内（上限1,500万円（年標準額375万円））】

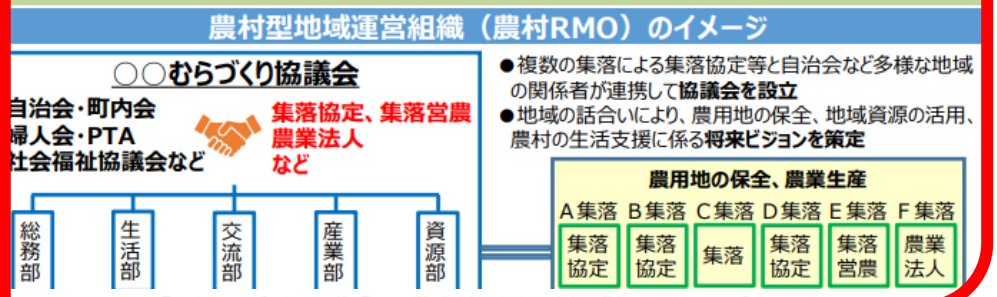
② **農村RMO形成伴走支援**

各地域の取組に関する情報・知見の共有、研修等により、農村RMO形成の更なる推進に向けた取組を支援します。【事業期間：１年、交付率：定額】

3．「島のめぐみ」プロジェクト推進事業

＜事業イメージ＞

＜事業イメージ＞



［お問い合わせ先］ 農村振興局地域振興課 （03-3501-8339）

農村RMOとは…

簡単に言えば、集落機能＝集落での生業・生活が続くことを支える活動

- **3つのサブ機能はメイン機能の結果**
- **協議会・部会制の組織はあくまで結果**
- **大事なのは組織形態や実施事業よりも地域でしっかり話し合い「どうありたいのか」を共有すること**

農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業 実施状況

令和8年7月31日現在

中国四国（計26地区）

島根県（3地区）
- 46 口羽地区振興協議会（邑南町）
- 47 跡市地区まちづくり協議会（江津市）
- 48 三原農村RMO（川本町）

岡山県（4地区）
- 49 みまさか農村RMO推進協議会（美作市）
- 50 上加茂地区住民自治協議会（津山市）
- 51 三ツ山レモン普及協議会（浅口市）
- 52 新山地区自治会（笠岡市）

広島県（5地区）
- 53 安田未来づくり協議会（神石高原町）
- 54 泉地区協議会（三原市）
- 55 高野RMO（庄原市）
- 56 高地域振興協議会（庄原市）
- 57 殿賀地域振興協議会（安芸太田町）

山口県（3地区）
- 58 祖生ふるさとづくり推進協議会（岩国市）
- 59 真木淡木地区まちづくり協議会（長門市）
- 60 日積地域活性化協議会（柳井市）

徳島県（4地区）
- 61 奥阿波RMO推進協議会（阿波市）
- 62 Kozato Labo（美馬市）
- 63 端山地域RMO推進協議会（つるぎ町）
- 64 上勝RMO推進協議会（上勝町）

愛媛県（4地区）
- 65 横林カスタマイズ（西予市）
- 66 石畳地域協議会（内子町）
- 67 三崎がいなプロジェクト（伊方町）
- 68 まるごと緑農村活性化協議会（愛南町）

高知県（3地区）
- 69 秋葉まつりの里　未来会議（仁淀川町）
- 70 集落活動センター「だんだんの里」（仁淀川町）
- 71 集落活動センター「おちめん」推進委員会（梼原町）

北陸（計11地区）

新潟県（2地区）
- 21 別保みんなのふるさとづくり推進協議会（柏崎市）
- 22 夢ビレッジ胎内290（胎内市）

富山県（5地区）
- 23 十二町特徴可能な地域づくり推進協議会（氷見市）
- 24 東山地区まちづくり協議会（黒部市）
- 25 池多地域おこし協議会（富山市）
- 26 松倉地区みらいの農村づくり協議会（魚津市）
- 27 久目地区地域づくり協議会（氷見市）

石川県（3地区）
- 28 しらみね未来づくり会議（白山市）
- 29 白山市木滑地区協議会（白山市）
- 30 上黒丸地区未来づくり協議会（珠洲市）

福井県（1地区）
- 31 MISAKI未来（越前町）

九州（計18地区）

福岡県（2地区）
- 72 採銅所地域コミュニティ協議会（香春町）
- 73 特定非営利活動法人くまがはたちんどん（嘉麻市）

佐賀県（1地区）
- 74 北山カンパニー（佐賀市）

長崎県（3地区）
- 75 岐宿まちづくり協議会山内支部（五島市）
- 76 田代地域むらづくり協議会（松浦市）
- 77 雪浦ふるさと保全活動活性化協議会（仮称）（西海市）

熊本県（5地区）
- 78 東陽農村RMO協議会（八代市）
- 79 宮地岳みらい里山協議会（天草市）
- 80 山江村未来づくり協議会（山江村）
- 81 美里町川越地区地域運営協議会（美里町）
- 82 ASAMA地域運営協議会（御船町）

大分県（2地区）
- 83 山浦地域活性化協議会（杵築市）
- 84 津房地区まちづくり協議会（宇佐市）

宮崎県（3地区）
- 85 下塚田ふるさと応援隊（日南市）
- 86 すきRMO協議会（小林市）
- 87 下区ちくせん実行委員会（美郷町）

鹿児島県（2地区）
- 88 郡山農村RMO（鹿児島市）
- 89 和田地区自治公民館（日置市）

- ：モデル形成支援地区（R6着手）27地区
- ：モデル形成支援地区（R7着手）21地区
- ：モデル形成支援地区（R8着手）41地区
- ：うち活動着手支援型 9地区

89地区

- ：都道府県伴走支援（R6着手）7箇所
- ：都道府県伴走支援（R7着手）0箇所
- ：都道府県伴走支援（R8着手）3箇所

10箇所

東北（計13地区）

岩手県（4地区）
- 1 南股まちづくり協議会（奥州市）
- 2 赤沢地区社会福祉協議会（紫波町）
- 3 小槌川流域まちづくり協議会（大槌町）
- 4 太田地区環境保全組合青年部（二戸市）

宮城県（2地区）
- 5 はせくら地区活性化推進協議会（川崎町）
- 6 鹿原地区コミュニティ推進協議会（加美町）

秋田県（1地区）
- 7 下岩川地域づくり協議会（三種町）

山形県（3地区）
- 8 日向ふるさとづくり協議会（酒田市）
- 9 中津川いいもんだ未来協議会（飯豊町）
- 10 清流の里立谷沢（庄内町）

福島県（3地区）
- 11 農村RMO旗宿地域づくり協議会（白河市）
- 12 奥川地域づくり協議会（西会津町）
- 13 太田の里地域づくり協議会（二本松市）

近畿（計11地区）

滋賀県（3地区）
- 35 東草野農業振興会（米原市）
- 36 仰木地域共生協議会（大津市）
- 37 朽木地域住みよいまちづくり推進協議会（高島市）

京都府（2地区）
- 38 摩気地域振興協議会（南丹市）
- 39 伊根町農村RMO推進会議（伊根町）

兵庫県（2地区）
- 40 豊かな郷づくり協議会（赤穂市）
- 41 雲部のみらい創造会議（丹波篠山市）

奈良県（4地区）
- 42 明日香むらおこし協議会（明日香村）
- 43 大柳生むらづくり協議会（仮称）（奈良市）
- 44 福の住む里協議会（天理市）

関東（計7地区）

群馬県（1地区）
- 14 安中秋間地域RMO推進協議会（安中市）

山梨県（2地区）
- 15 ふじかわRMO未来会議（富士川町）
- 16 富士川町農村RMO中部・五開地域づくり協議会（富士川町）

長野県（4地区）
- 17 大岡ふるさとづくり協議会（長野市）
- 18 山室地域協議会（伊那市）
- 19 かわしま里継ぎ協議会（辰野町）
- 20 あさひRMOふるさとづくり協議会（朝日村）

東海（計3地区）

岐阜県（2地区）
- 32 あしたりの会RMO（郡上市）
- 33 揖斐川町農村RMO推進協議会（揖斐川町）

モデル事業地区だけが農村RMOではない！組織ではなく実践がポイント！

9/3農村RMO不毛の地あおもりで
JTB総研橋本さんの講演

↓

A市職員：1時間話聞いたけど結局、
農村RMOて何？一言で言うと

↓

いろいろな組織を横断すること。。。
で、集落が持続すること。。。

↓

ごめんなさい、よくわかりません(;'∀')

↓

B市あおもり型農村RMO専業農家：
みんな地域のためにそれぞれ頑張ってる
でも、つまんない縦割りで躓く
それを解決するのが農村RMOじゃない？

前日、別のC市のあおもり型農村RMOの
話合いで兼業農家(土方一人親方)から
「農村RMOなんだから、今ある組織さ
つないでいくんだべ」

現場の人たちは体感で勘所をすでに理解

農政の大転換期以前に、
農家のみなさん総引退期に入る今だからこそ、
農村・集落がどうしたら持続していくのか、
そのための知恵を寄せ合う場、
組織ではなく取組が次々生まれる場こそ農村RMOの根本

では、どうしたら生まれるのか？

踊り場に来たとき、現場から アイデアが次々出るようにしたい

気候変動やグローバル化に順応する踊り場

理想＋寄り添い

主語は住民→住民も行政も

DISCOVER DREAM DESIGN DESTINE

ありたい姿探し → 将来像・目標共有 → 試行錯誤 → 小さな成功体験 → 仲間づくり team building → 組織的事業展開 →

地域力
地域の盛り上がり

0

かけた時間は
費用ではなく資本

中越復興では
3-5年で分岐点

時間

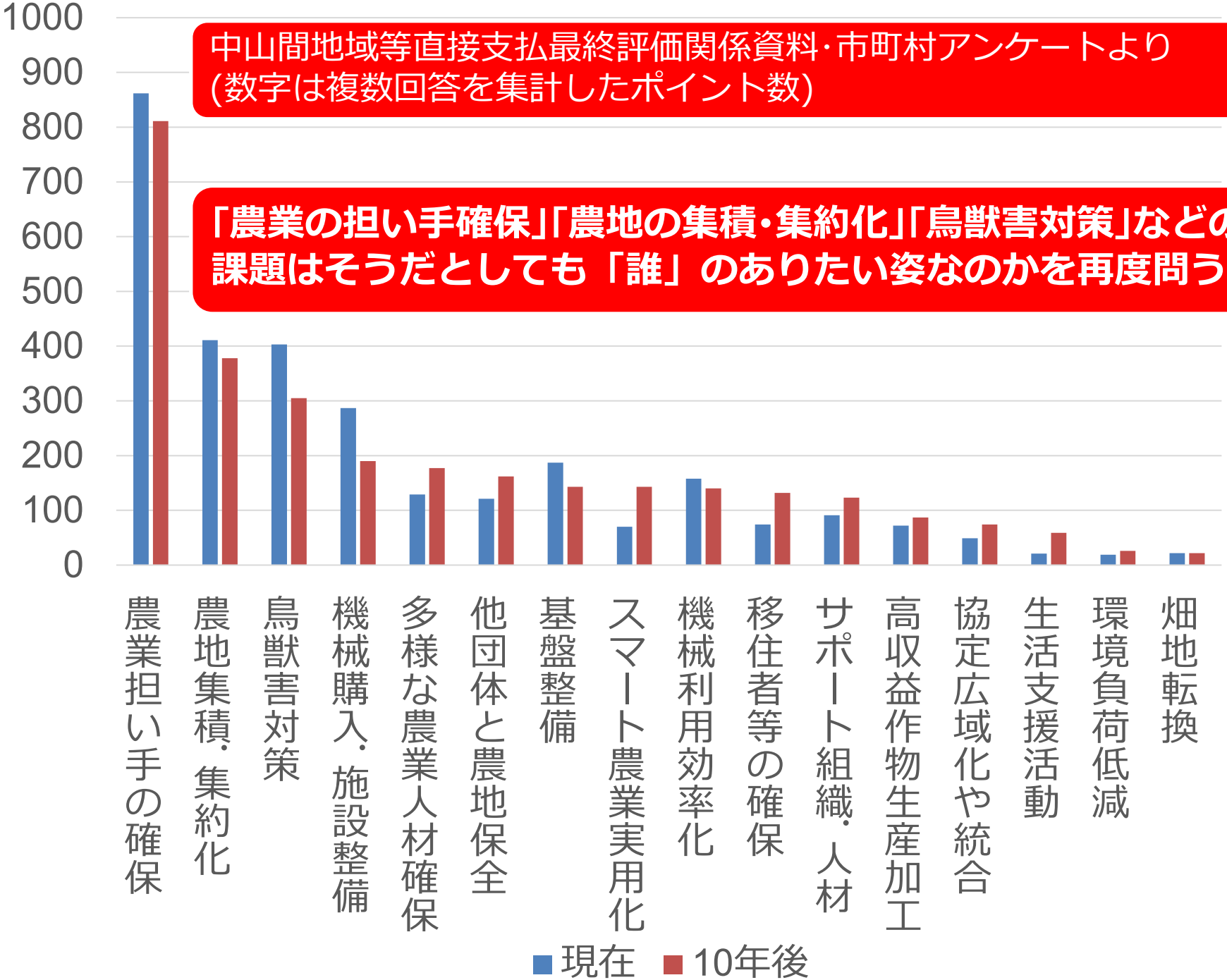
危機感＋補助金

課題探し → 補助事業 → 形式的組織化

補助切れ → 事業疲れ → 目標喪失 → 倍の諦め

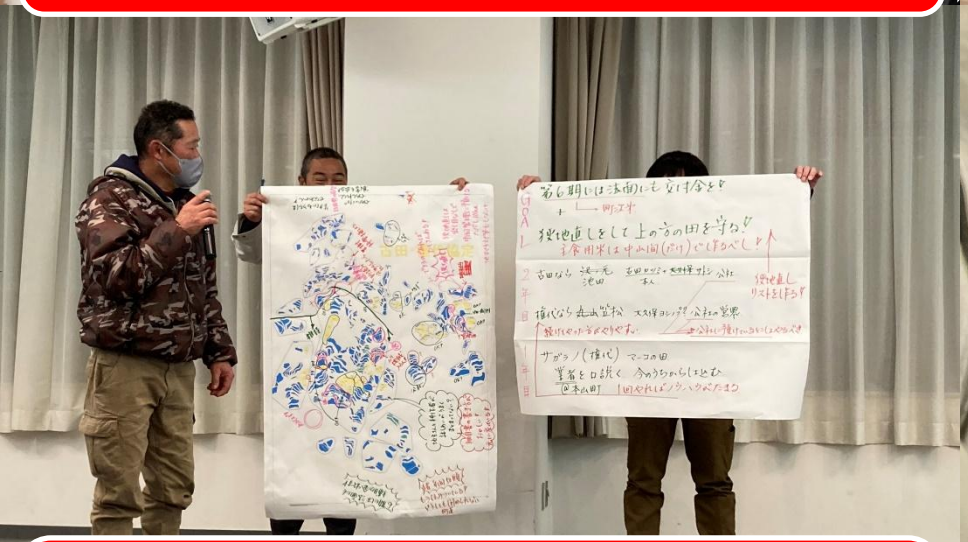
中山間地域等直接支払最終評価関係資料･市町村アンケートより
(数字は複数回答を集計したポイント数)

「農業の担い手確保」「農地の集積･集約化」「鳥獣害対策」などの課題はそうだとしても「誰」のありたい姿なのかを再度問う



①隣の他者の夢＝本音を聞き出す
DIALOGUE on DREAM

②他者の夢を共有しみんなの夢を決める
DESTINE on DREAM　（シール投票）



④身の回りの状況を夢の実現にいかすための物語＝5W1Hをつくる
DESIGN for DESTINED DREAM

③身の回りがどうなってるか確かめる
(農地管理状況など)DISCOVER

①隣の他者の夢＝本音を聞き出す
DIALOGUE on DREAM

②他者の夢を共有しみんなの夢を決める
DESTINE on DREAM　（シール投票）

課題は誰かが解決してくれること。夢は自分が目指すもの。
個人の夢を話し合いでみんなの夢にできれば、自分事が地域事になる。

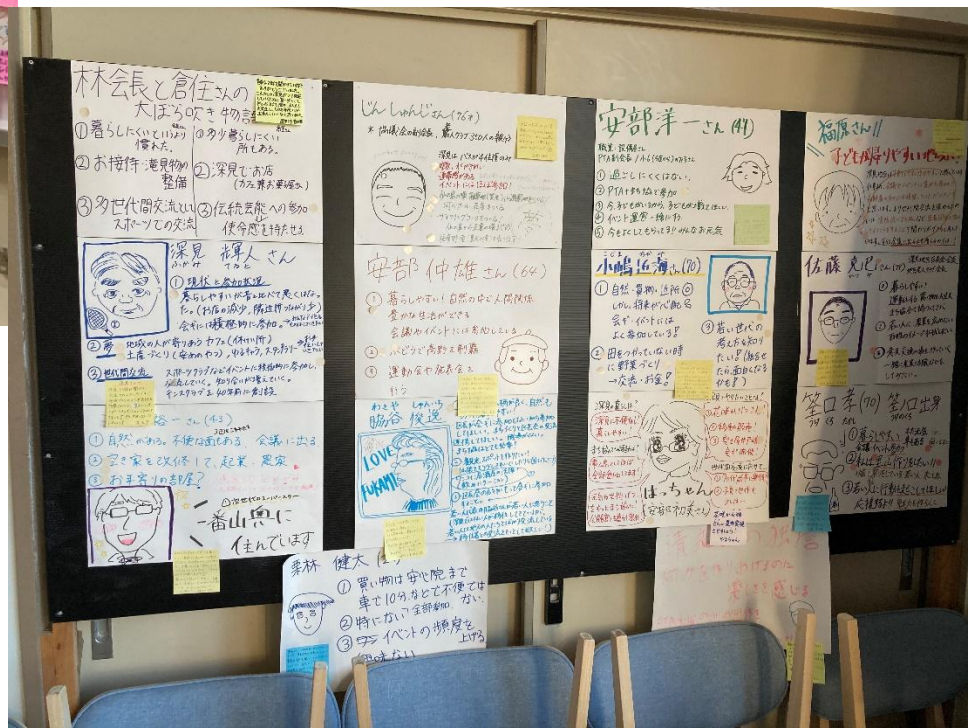
まず似顔絵を描き合うことで気分がほぐれる→左脳でなく右脳が働くとの声
ニックネームを聞き合うことで肩書ではなく家族のような関係に
→行政への要望・苦情を言いに来た方が「しょうちゃん」「お父さん」になる

経験上、どんな方でも「こうありたい」という声は必ずある
特に不満・不安ばかりという状況ならば、まずは不満・不安を聞いてもいい
→できれば核心的な不満・不安にまず応えられれば動き出す
(例)うちのムラは電波が入らないから若い人がいやがる→電波を立てる
うちのムラは下水が通っていないから→格安の合併浄化槽、規制を見直す

夢語りのシートは地域の財産になる

宇佐市深見地区での試み
ぶどうの6次化「百笑一喜」
グリーンツーリズムで著名。

でも互いの夢を語り合うのは
初めてだった。。。



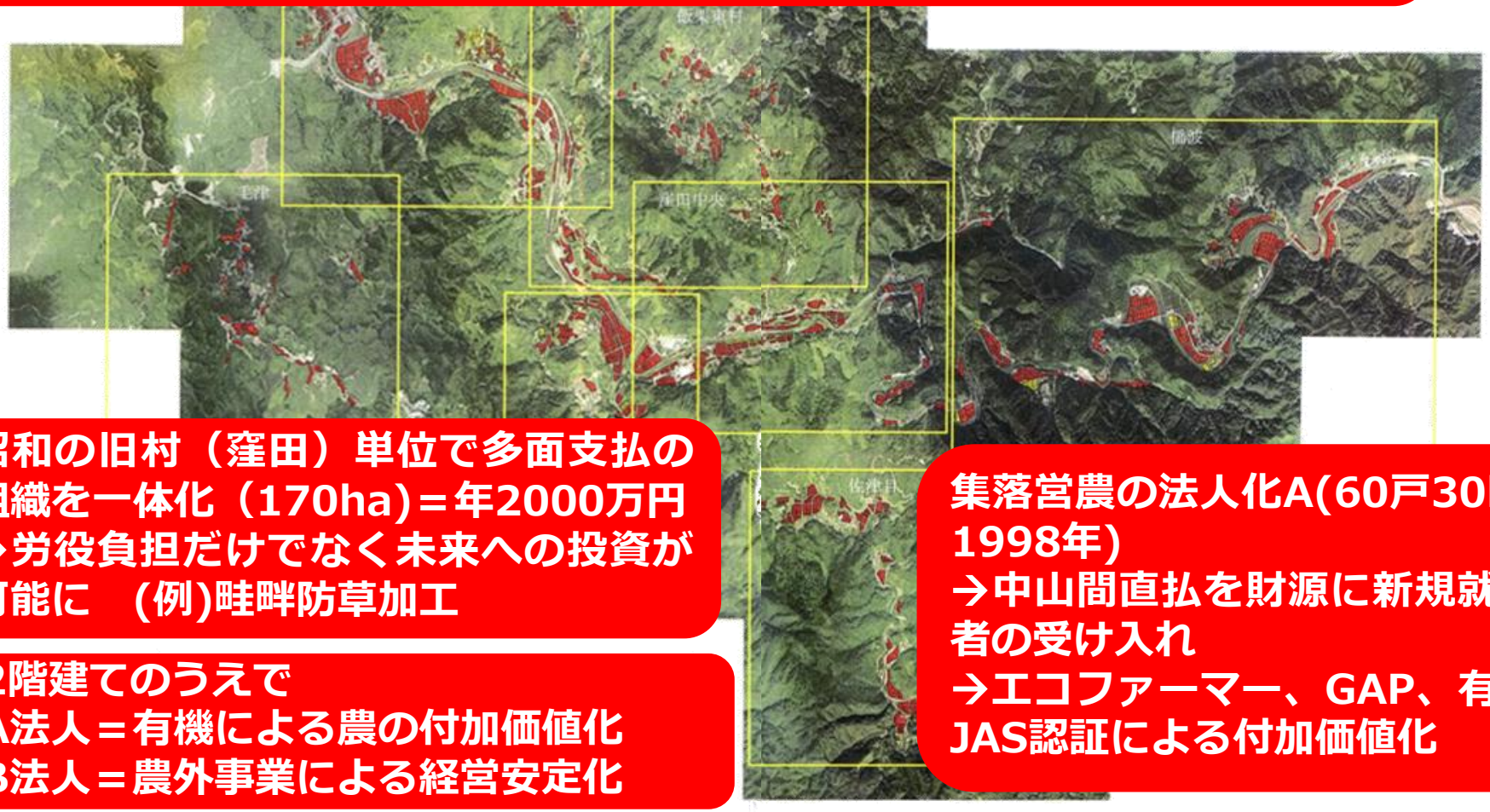
3年後訪ねてみると…
公民館に貼り出され
思わぬところから実現も。
新たな仲間の夢も。

他人ごと→自分ごと→地域ごと

もうすでに始めてしまっている、
今さら夢語りなどしていられない、
というところも、
いつでも夢語りから始めなおせる

直払を集落営農経営に組み込み農外事業拡大
出雲市佐田地区窪田の農村RMO

集落営農の法人化B(80戸30ha、2003年)
→市委託外出支援(1人月2回まで)と配食サービス(毎日朝夕)＝通年雇用の柱
→除雪・機械整備、さらに育苗＋育苗ハウス利用、事務受託、林業にも
＋畦畔除草に羊を導入→癒しと毛織物＋直払でのインターン受入



昭和の旧村（窪田）単位で多面支払の組織を一体化（170ha)＝年2000万円
→労役負担だけでなく未来への投資が可能に　(例)畦畔防草加工

2階建てのうえで
A法人＝有機による農の付加価値化
B法人＝農外事業による経営安定化

集落営農の法人化A(60戸30ha、1998年)
→中山間直払を財源に新規就農者の受け入れ
→エコファーマー、GAP、有機JAS認証による付加価値化

窪田を含む佐田地区での農村RMO

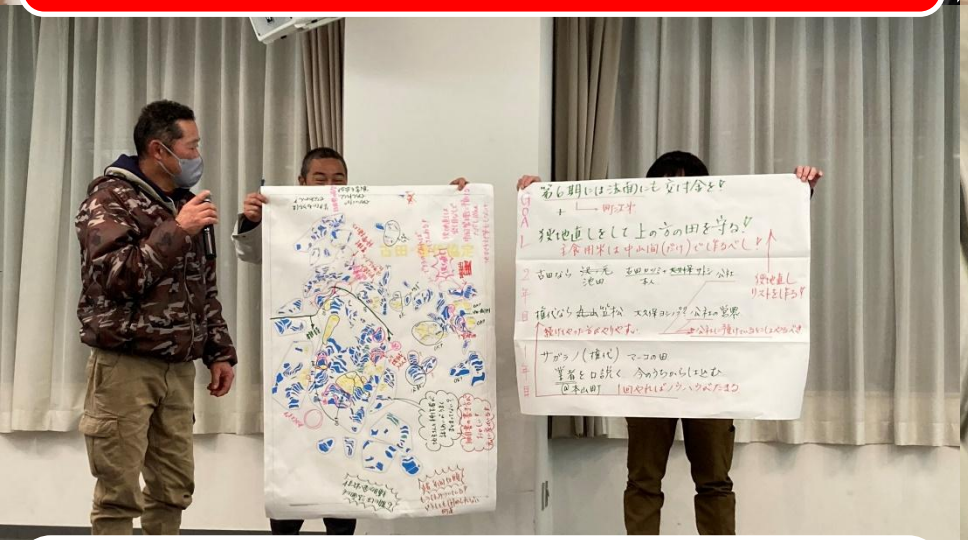
旧須佐に公共施設が集中している一方、
農村RMOの実態は旧窪田が先行
→旧窪田の農村RMOを旧須佐に展開
＋旧須佐の事務能力を活用
→旧須佐でも中山間協定広域化

ありたい姿をお聞きすると、
旧須佐で森林・山村多面を原資に
・タケの伐採・炭化・販売
・クロモジの自家増殖と栽培・販売
を軌道に乗せている集落の存在が浮上
→逆に旧窪田にも横展開の可能性

旧須佐の有機農業のノウハウの展開
＋タケやクロモジを活用する粗放的管理
＋粗放的管理による獣害対策目指す

このままではどんどん耕作放棄が増える

農地を荒らさずに未来に受け継ぎたい



- 直払の事務負担の分担・軽減
- 草／獣との付き合い方
- 非農家、地域外の人たちとの楽しみ方

どの農地、誰の所有地で荒れそうか
草刈なのか、獣害なのか、担い手なのか

斜面が竹で覆われる
森林組合職員が退職し集落の世話を

↓

空気清浄機メーカーからの依頼で
炭焼き窯の跡をいかして竹炭に

↓

炭だけでなくチッパーでパウダー化
発酵させて田にすき込む

↓

田も維持できない
別のメーカーに依頼され
精油用のクロモジを田に植える

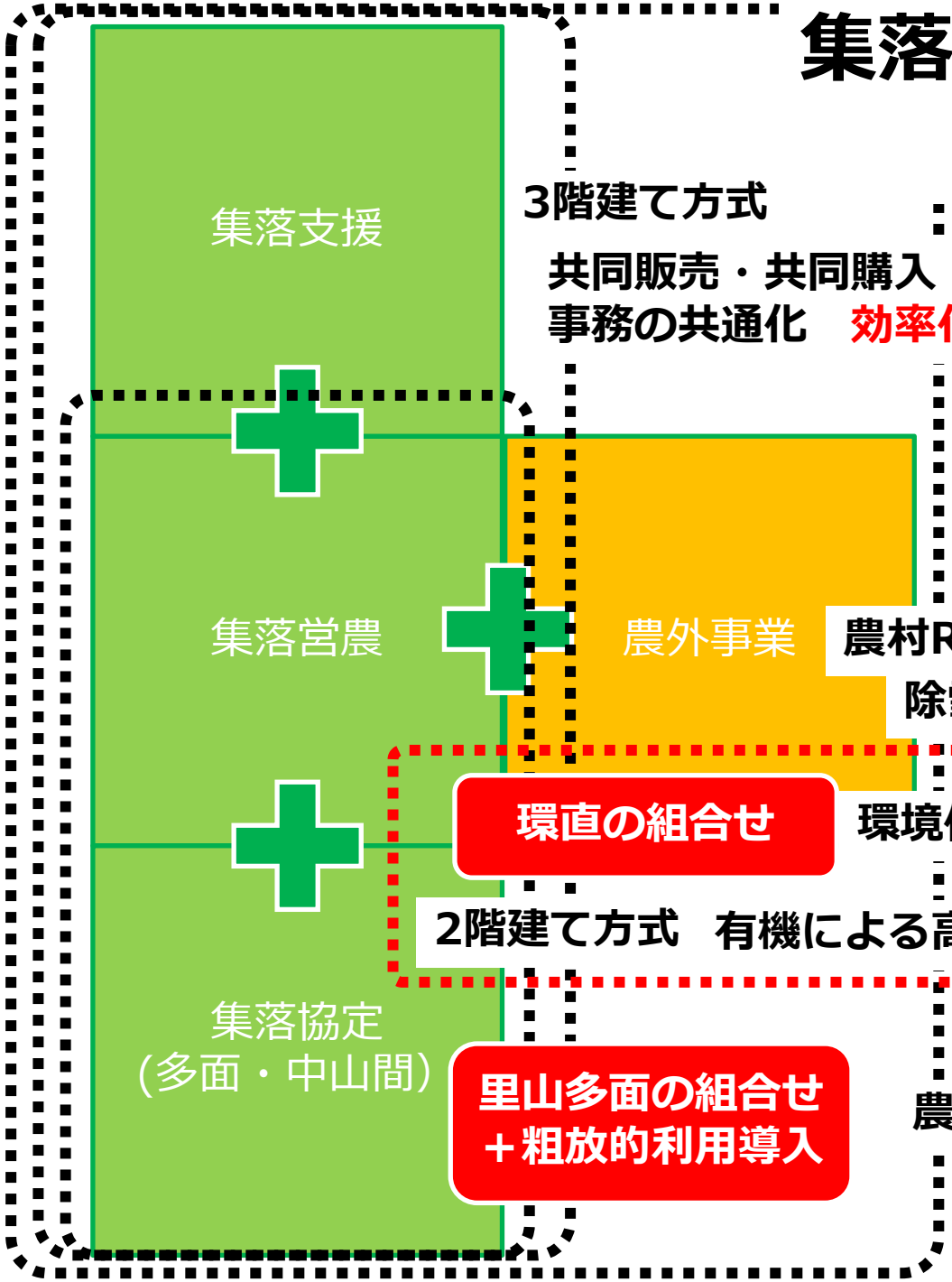
↓

山から選抜したクロモジを育て
空き育苗ハウスで乾燥して出荷

↓

ノウハウを地区全体で共有する場が
＆地域で加工まででできるように
畦の防草加工も直払で行う話し合いに

集落営農の3階建てと農村RMO



3階建て方式

共同販売・共同購入
事務の共通化　効率化よりも共同だからできること

出口＝解答の絵は描ける
でも現実はうまくいかない

農村RMO
除雪・移送・配食　そして事務

環直の組合せ
環境保全の実効性を確保する集落営農

2階建て方式　有機による高収益化

行政や消費者・取引先
からも支援

里山多面の組合せ
＋粗放的利用導入

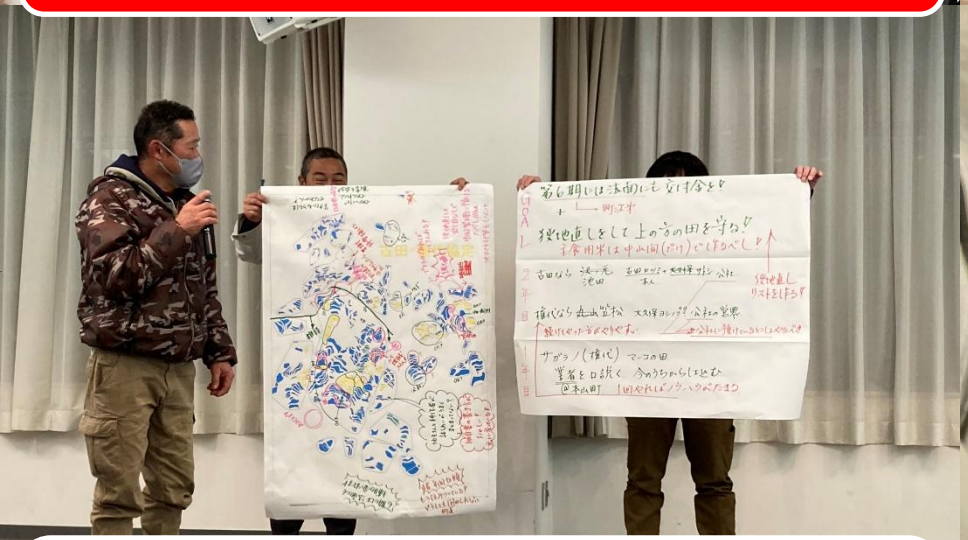
農地･林地の境を超える

効率的だから、では、
自分たちで考えるより前に
範囲や規模が大きければいいという結論ありき

机上の組織論よりも
小さなありたい姿を見定め
徐々に育てた方がいいのでは？

獣害で困り果てている

ケモノに負けないムラでありたい



・柵の整備・ジビエの活用・草刈、枝落としの励行で干渉地帯を・獣とつきあう
農:竹、彼岸花、山菜、しし米

どこでどんな獣害がひどいのか
獣害にやられないものはないのか

白神山地の麓でクマが闊歩
コロナも乗り越えた農泊が再びピンチ

↓

クマの通り道を集落の人たちで情報共有

↓

クマの通り道になる草むらを
乗用草刈り機やモアで徹底的に管理
財源は農村RMO

↓

温暖化なのに続く大雪でも安心して
暮らせるように除雪機も導入
間口除雪手分けして

↓

クマの好きなカキやクリも
じっくり話し合って手入れ

↓

白神山地を望む田んぼの景色を守りたい
という思いが顧客やファンに浸透

↓

山あいの耕作放棄地
化粧品メーカーから契約栽培
鳥の被害も農村RMO仲間の助言でクリア

粕毛＋藤里町

お年寄りでも続けられる農泊

地元の高齢者福祉NPO

伴走支援 → 地域資源活用 → 農泊

生活支援 → お年寄り

2017

農水省・農泊事業

中間支援組織が受付・調整・決済

宿泊だけOKのおじいちゃん＋料理だけのおばあちゃん。

体験は集落の畑や中間支援組織のイワナ築場。

小回りが効き事務能力も高い理想の伴走

伴走支援 → 地域資源活用 → 農泊

農用地保全 → 多面組織

生活支援 → 町内会

2023

農水省・農村RMO事業

空家一棟貸し裏庭展望台

モア・乗用草刈機

間口除雪

農水省・山村振興事業

中山間協定設定できず。

除草受託だけでは自主財源見通し立たず

2026

伴走支援 → 農村RMO

加工女子協力隊OB

化粧品企業

伴走支援組織と地域組織がほぼ人的に一体化

地域資源の商品化の収益も、伴走支援組織なのか、農村RMOなのか未分化

獣害を何とかしたい、
という本当に切実な想いから
取組を次々と生み出している場がある

人口減少と自然の圧の高まりの極限において

何を作ってもサルに食われる
話し合いで「サルに負けない」が目標に

↓

サルに食われにくいものが次々
種苗業者・普及員交え勉強会を

↓

サルより早く取りにいく名人を中心に
農地の集約化に道筋

↓

隣の地区、隣の市からの通い農の人
4名が農地を引き受ける
＆栽培指導の学びの場ができる

↓

収穫祭　野菜を使った地元の食
＆特産の魚を使ったさつま揚げ

↓

80年代に賑わった山菜加工センターが
新たな衛生基準に集団対応する受皿に

↓

収穫祭から秋祭りでの獅子舞が
20年ぶりに復活
サルには勝てないが負けない

佐井村＋川目

サルに負けない、リーダーや売り先がなくなっても

2021

青森県・地域経営
モデル集落事業

協力隊OBのローカルコンサル

伴走支援

地域資源活用

生活支援

産直

お年寄り

サルが寄らない作物の自発的掘り起こし
産直で人気のある花、懐かしい餅づくり

2023

青森県・地域経営事業
1集落をベースに全村に開く

伴走支援者もープレイヤーである限界

県普及村大学

地域資源活用

農用地保全

生活支援

産直・協力隊OB

~~集落協定~~

町内会

冷蔵庫
真空パック

耕作者斡旋
学びの場

集いの場
加工施設

青森県・あおもり型
農村RMO事業……

2026

中山間協定設定できず
産直手数料だけでは自主財源見通し立たず

県普及村大学

農村RMO2人代表制……

発酵女子

地元企業

伴走支援組織を立てなくても役場さえ機能していれば回る……
人口減少が極限まで進むと事務的な「代表」さえも常識を超えてくる

米が安くてやっていられない
そばのままでは交付金がもらえない

農産物や農地でもっと稼げるように

・特栽や有機JASに挑戦する
・地域外の人たちを招いて買ってもらう
・貸農園を開く

どこで何ができて、どこがうまいのか
どこが大変なのか

田植機・収穫機、草刈機
などの共同利用組合

↓

車で10分ほど離れた温泉旅館から
そばの作付けを依頼

↓

そば用の播種機や製粉機も
共同利用組合で導入

↓

集落で年2回の意見交換の場に
40代兼業農家・地域外農家の意見から
有機栽培に取り組むことに

↓

中山間直払の棚田地域加算で
ドローンや防草ロボ、水位センサー
なども導入

↓

そばから有機JAS米へ翌作から転換
そばの有機JAS認証にもチャレンジ

↓

有機の肝は省力化・資材投入減
畦畔でも高刈りが普及

大川原(黒森)

60代、70代の特定の男性たちで輪番

地域資源活用　農用地保全　生活支援

2019

表立って話す機会なし

県・市 → 生産組合　集落協定　町内会 ⇔ 若い世代

そば機械補助　モア導入

県・市大学 → 消防団の集まりでWS
先輩たちの村づくりの想い聞く
そばも初めて食べてみる

2021　棚田地域指定＝棚田加算

生産組合　集落協定　町内会　若い世代　そば旅館 有機米

振興協議会設立＝若い世代と地域外の実需者に開いた組織に

ドローン　資金　冬季タクシー　若手兼業者の有機米・そば

県普及市大学 → あおもり型農村RMO
(単数集落でも支援)
による伴走支援

実需者のニーズも踏まえた作付計画

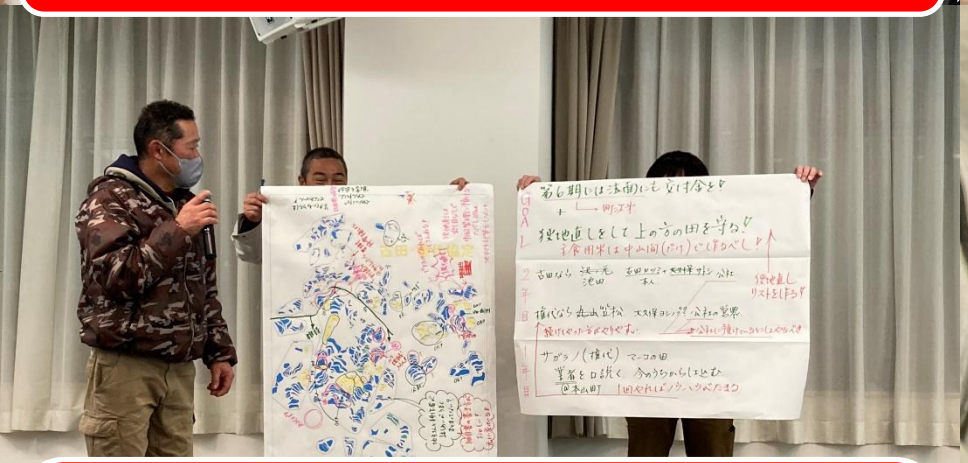
資金　機械除雪

タクシーへの感謝から除雪

2026　地域おこし協力隊2名とはうまい関係形成ができず。。。
キーパーソンが立て続けに亡くなり50代兼業農家がリーダーに

大雪が降っても安心して暮らしたい
隣り町に透析に通いたい

住み慣れた家で暮らせるように



どこでどんなニーズがあるのか
どのルートならば行けそうか

- 間口除雪など助っ人の組織化
- 子ども/お年寄り、人/物を一体的に
- 中山間でもタクシー代を支援
- 移動販売の帰り荷で農産物を出荷

弱者扱いしない！地域づくり

横浜町など
集いの場でのお買物

直売所とテレビ電話を結ぶ。女性にとって買物が一番の脳トレ。

地域

買物弱者

生産者

送迎

集荷

月50万円

移動販売

日販12-13万円
2時間圏内

COOP AOMORI コープあおもり

coop 青森県民生協

横浜町・中泊町など
産直集荷・配達

全国の産直で、生産者の高齢化対応で、集荷を強化。配達などを合わせて行い運営費負担をできるだけ軽く。特に集いの場を集荷・配達の場にするのが効果的。

集いの場での餅づくり（佐井村）、お茶っこ費用をメルカリで稼ぐ（三沢市）

七和(６集落＝旧小学校区)

2014

青森県
集落経営事業

既存まち協＝指定管理＝一般RMO

コンサル伴走 → 地元社福 → 地域資源活用 / 生活支援

薪 / 除雪ボランティア

収益を上げようとするが…

ケアマネさんの発案の間口除雪ボランティア

2016

国交省
集落NW事業

有志の、本当に動く組織

コンサル急逝 → 地元社福 → 地域資源活用 / 生活支援

薪 / 除雪・移動・集配

本当の地域資源は弱者だと思っていたじっちゃばっちゃ

補助金頼みの移動支援は続かない、除雪は介護保険で

2021

青森県地域経営
あおもり型
農水省最適利用

組織を開いておけば機能は自ずと埋まる

県普及市大学 → 地元社福 → 地域資源活用 / 農用地保全 / 生活支援

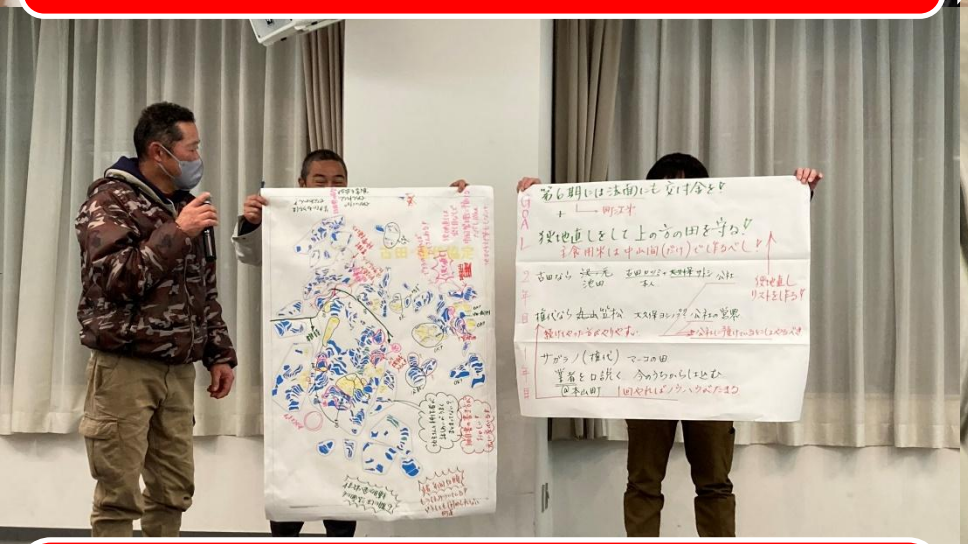
天日米収穫祭 / 若手農家 / 除雪集配施設管理

米自体より大事な収穫祭＝地域内外の人材掘り起こし

社福による廃校買得→ケアマネ拠点＋地域食堂→担い手も隣地区の農泊さんへ

畦の草刈が大変だ

畦の草刈が続けられるようにしよう



・神刈を入れる・草が生えにくい植栽
・農家でない人や地域外の人も楽しく参加する枠組みをつくる

どこが、どれくらい大変なのか確かめる

国交省・国土管理構想のモデル地区に

↓

農地や居住地の縮小の決断が迫られ
話し合いが難航

↓

ありたい姿に切り換え
地域計画や集落戦略見直しと一体化
あえて斜面地の農業残す選択

↓

A集落：貸農園事業と営農、農地保全
地区全体の国交省関係人口事業を一体化
移住希望→貸農園→就農＋空き家斡旋

↓

B集落：獣害対策もかね山里境界斜面を
かつての特産の栗園に再生する活動
年１万12回草刈技術＋つながり40名

↓

C集落水田ダイヤ球根栽培も
花摘みイベントに：参加者が新規就農

↓

集落ごと直払の一体運用と
小学校区での集落間の連携
ノウハウ交換・農地・空き家斡旋

西谷13集落(中学校区)

まち協支援のコンサル

伴走支本庁

2022 A集落

国交省・国土管理構想関係人口事業

- 地域資源活用
- 農用地保全
- 生活支援
- 営農組合・貸農園
- 集落協定
- 空き家

地域計画と集落戦略の一体作成

貸農園から農地の斡旋、空き家の斡旋

2023 B集落

伴走支本庁

- 3つが複合する集落機能＝持続
- 農用地保全
- 営農組合・貸農園
- 集落協定
- 空き家
- 栗園再生

貸農園から栗園再生に

栗園再生からの移住・就農

斜面地での有機栽培

2024 C集落

伴走支本庁

- 3つが複合する集落機能＝持続 互いに補い合うこともちろんOK
- 資源活用への展開
- 集落機能
- 営農組合代替わり
- 集落協定
- 空き家
- 栗活用
- ダリア組合・町内会・協定

集落機能とは3サブ機能の総合、分けられないし変化。
1集落でできるだけ充実させ、集落横断も許容

集落機能を３サブ機能で分けてしまうと
既存の組織ありき、それらの組織統合ありき、になる。

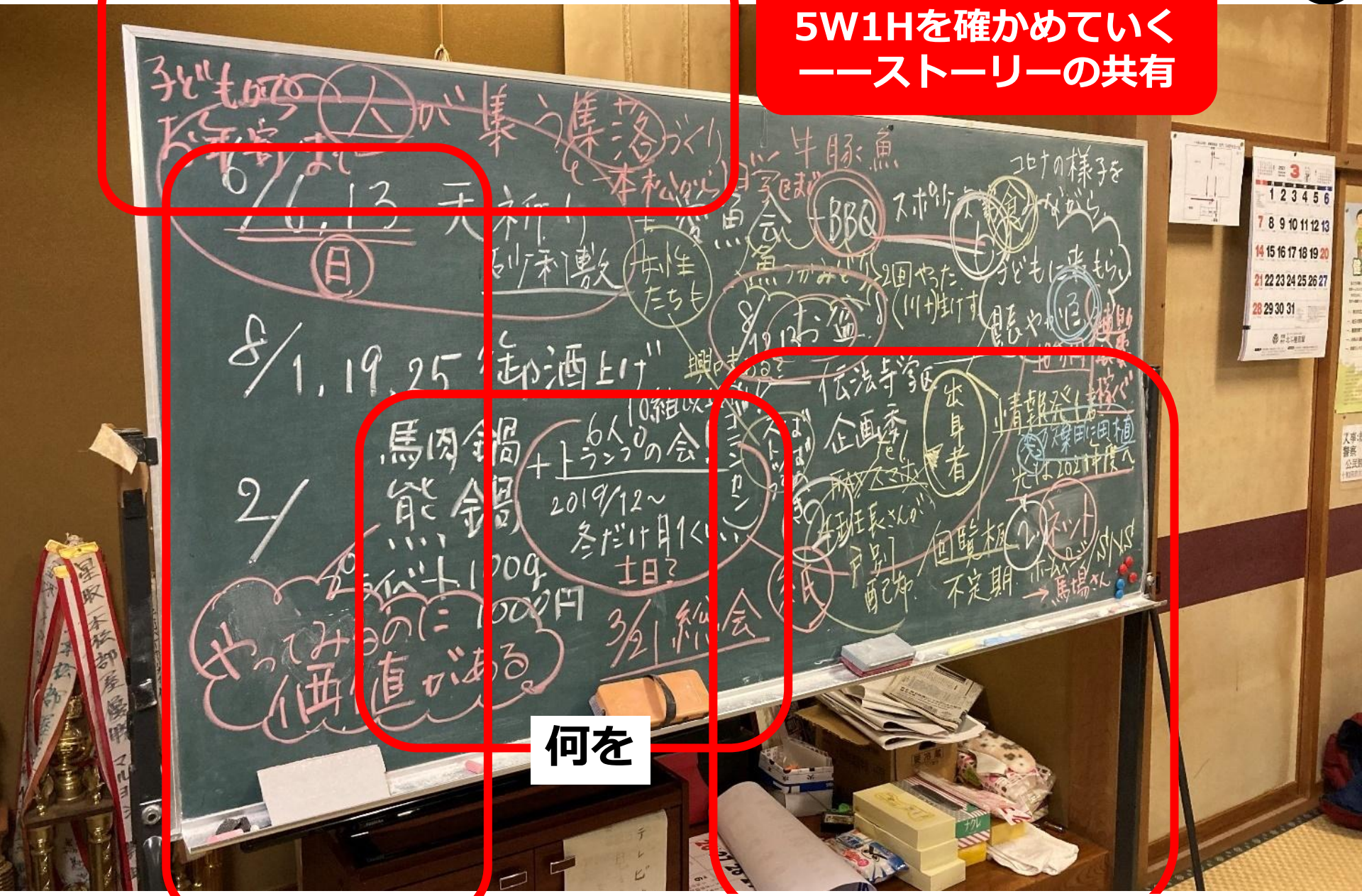
どうにかしたい、こうありたいという想いから出発する。
組織を開いておく。
何より３サブ機能に想定されていない、

自然の恵みを分かち合い、人びとと出逢う場をつくることが
結果として、３サブ機能をはじめ、
持続するという集落機能の未来が見えてくる

夢を語っていて暴走しないか？
５Ｗ１Ｈを確認していくと
自ずと落ち着くところに落ち着く

なんのために

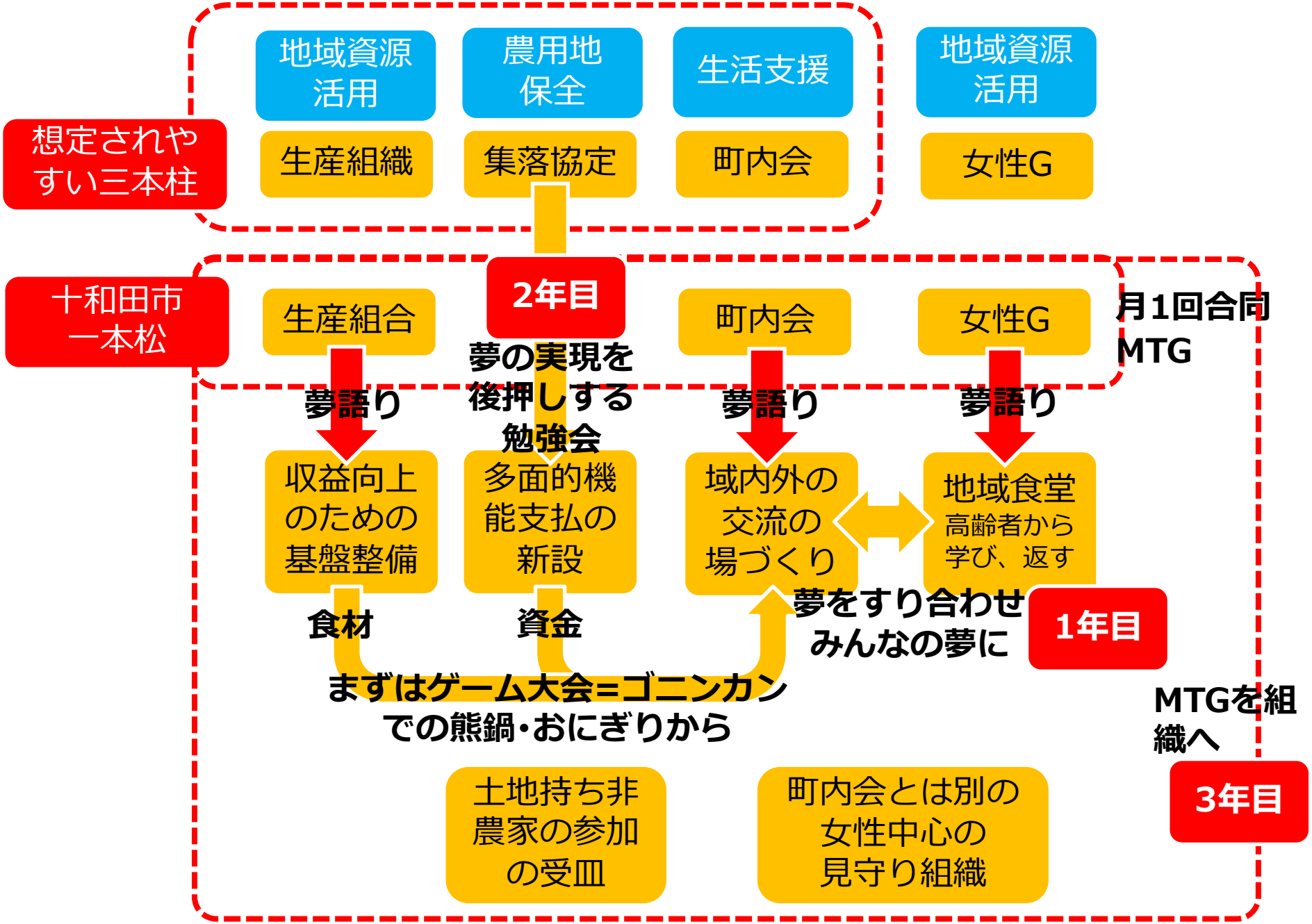
何かを決めるには
5W1Hを確かめていく
――ストーリーの共有

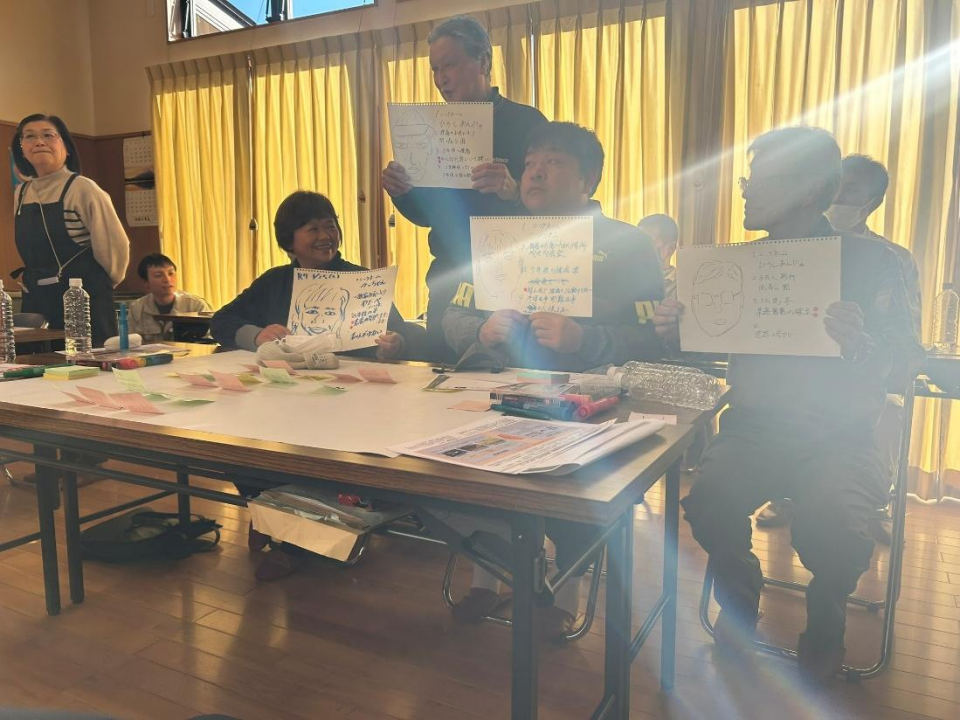


何を

いつ

誰が、誰に、どうやって


想定されやすい三本柱
地域資源活用
農用地保全
生活支援
地域資源活用
生産組織
集落協定
町内会
女性G
十和田市一本松
2年目
生産組合
町内会
女性G
月1回合同MTG
夢の実現を後押しする勉強会
夢語り
夢語り
夢語り
収益向上のための基盤整備
多面的機能支払の新設
域内外の交流の場づくり
地域食堂
高齢者から学び、返す
食材
資金
夢をすり合わせ
みんなの夢に
1年目
まずはゲーム大会=ゴニンカンでの熊鍋・おにぎりから
MTGを組織へ
3年目
土地持ち非農家の参加の受皿
町内会とは別の女性中心の見守り組織



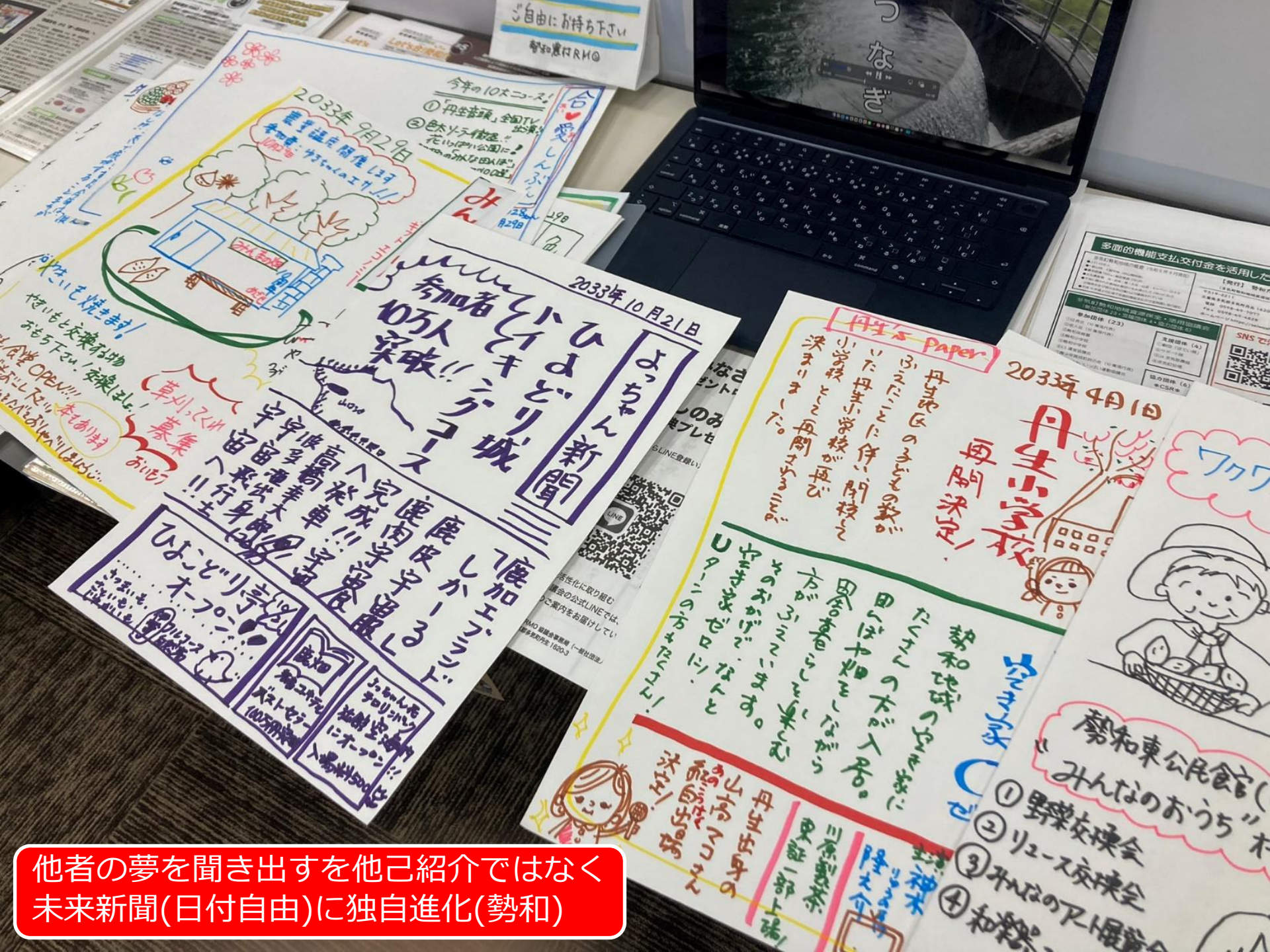
5年後の夢を語るところから
では4年目には何を
3年目には何を
。。。1年目＝すぐ何を
　　やれるかが話し合える

声かけしていただき若い世代や女性も。
昼におにぎり、豚汁を一緒に食べる。

1回目は「コンビニ」、「農業収益化」
など???な夢も投票結果ならあえて残す

➡ 2回目以降「誰」がやるの？を考えてゆくと自ずとこなれてくる
＊コンビニオーナー誘致→接待
　→谷田部食堂を充実
＊コメのブランド化→甲子園
　→まず研修に行ってみよう

➡ 2回目以降「誰」を連れてくる
→谷田部のマチ子さん
→マチ子さんは地域のファンも把握



他者の夢を聞き出すを他己紹介ではなく
未来新聞(日付自由)に独自進化(勢和)

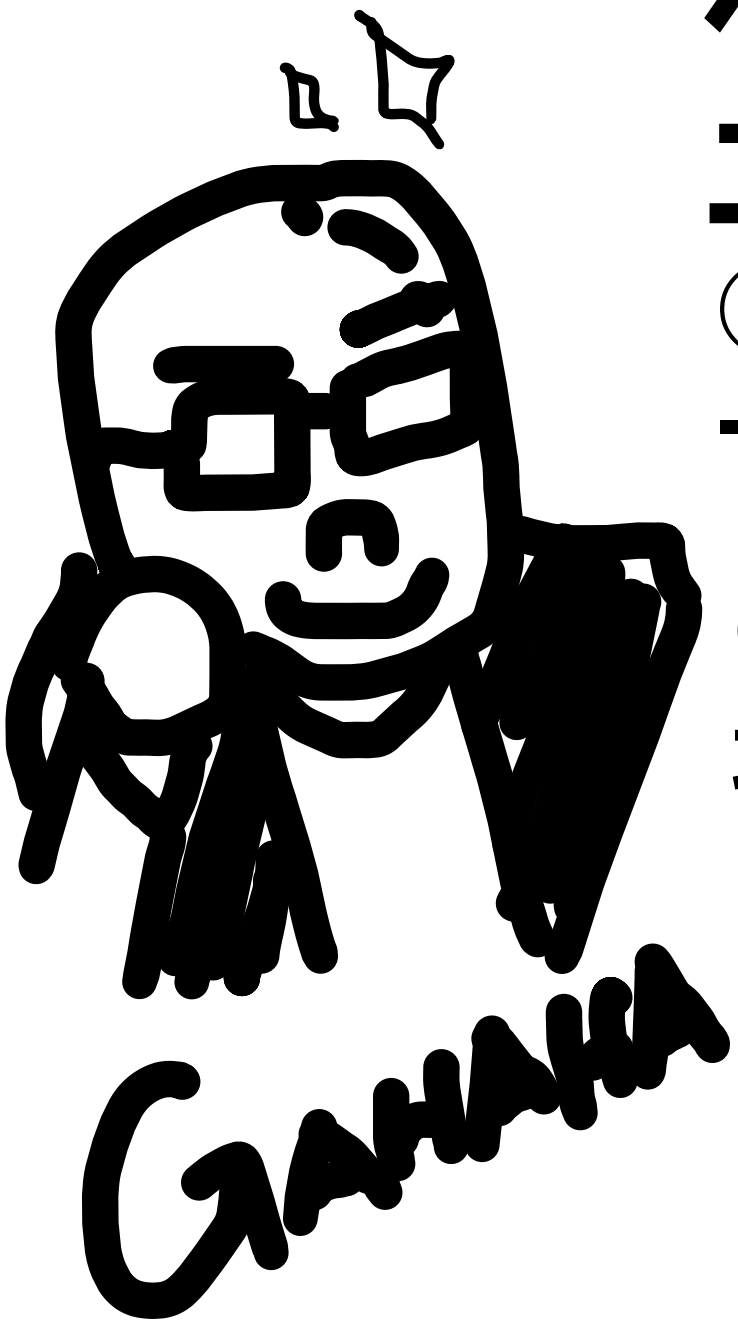
ありたい姿から始める地域づくりを支援する

農政が食料安保(コムギもコメも足りない！)を軸に大転換しようとしている
→振り回されないためにも、現場のありたい姿を見定め、さまざまな施策を現場から積極的に横断し総合化して、現場のありたい姿＝持続に資するようにしたい

危機感をてこにした課題解決型、集落3機能に対応する組織ありきの事業は、
ありたい姿が共有されていないと、行き詰まりやすい
ありたい姿から始めれば、壁にぶつかっても、現場から代案が次々と出る
→そのためにも、課題＝解決策(事業)ありきではなく実のある話し合いを重ねる
ーーちょっとした発言も拾われ、カタチになる繰り返し　「言ってみるもんだな」

話し合いでは「Yes, but＝そうですよね！ほかに何かお気づきのことは？」と
まずは現場の声を尊重し、そのうえで別な可能性もつねに目配りしたい
→関心と敬意を持って臨んでいるかはすぐに伝わる。
　現場の人たちも情報のチャンネルが豊かなので支援者側も学びを深めたい。
→知らないことが罪ではなく、それはどういうことですか？と
　関心を込めた「更問い」ができるようにしておきたい。

集まってもらう、のではなく、集まりに出向く、集まりをしつらえる
→集まりの鍵の1つは、地域に根ざした食やゲームの場
　ただし本当に意味のある場だと思ってもらえれば、必ず集う、集いつづける
　→次に来てもらう、誘い合ってきてもらうために１回１回が勝負
　どれだけ意見が言えたか、「聞かれたか」の手応え次第



ペアの方のニックネーム

①ペアの方の地域の一押しの味は？食は？

②ペアの方の5年後の地域はこうあってほしい

③ペアの方の地域のありたい姿の最大の壁は？

自分たちで1筆ごと確認しよう

耕作者の年齢別

- 60代以下
- 70代
- 80代以上
- 耕作放棄

作目別

- 水田
- 樹園地
- 畑(野菜)
- 耕作放棄

地図に耕作者のプロフィールも転記しましょう

ちょっとした気づきを出し合いましょう

・どういう人が、どういうものが多い／少ない
・どうしてこんなものが？あれはどうなってる？
・若手が多い？少ない？なぜでしょうか？

・地図記号を１つ１つ確認しながら、
利用できそうな施設、将来に不安が残る施設など

とは？

・空き家はありませんか？

- 農地管理：平場の圃場整備地による集約と受入
  傾斜地をどうしていくか

- 果樹のブランド力：温暖化や豪雨多発で大丈夫？
  水稲の機械更新、水稲・野菜の有機転換は？

- UIJターンはどうやってできた？
  都市農村交流や関係人口は？

- 空き家はどうする？

- 除雪は大丈夫？
- お年寄りの足や子どもたちの足は大丈夫そう？

10年後の理想像を描こう

どこがどうなっていたらよいか

地図の上に
おおまかな5年後
の理想像を書こう

数が多ければ
投票で絞ろう

理想像を実現するストーリーをつくろう

耕作者リストを熟読し、
キーパーソンを想定してゆく。

いつまでに 誰が 何をする

5年後 RMOが 空き家マッチング

3年後 親と学校が 農の教育

2年後 有志と市が 空き家片付け・改修

1年後 町内会とweb得意な住民 空き家現況・意向調査

理想像へのストーリーに名前を付けよう

雪と農を満喫できる子育てならここ！

空き家イキイキ
プロジェクト

5年後	RMOが	空き家マッチング
2年後	有志と市が	空き家片付け・改修
1年後	町内会とweb得意な住民	空き家現況・意向調査

３つのテーマと横つなぎ
安定的な運営財源
RMO設立

子育て就農者の
住まい応援

3年後	親と学校が	農の教育

農ある子育て
プロジェクト